

たてはく

令和6年度 日本三霊山連携事業・前期特別企画展

立山・白山・富士山を巡るー立山衆徒と三禅定ー

会期：7月13日(土)～9月23日(月・振替休日)

富山県・石川県・静岡県が協力する日本三霊山連携事業の一環として、この夏、三山を巡る巡礼の旅「三禅定」に再度注目します！

江戸時代、東海地方の人々が盛んに行っており、旅の日記(道中記)や三禅定の習俗を示す石碑・供養塔(三禅定碑)が愛知県の知多市や常滑市、大府市、東浦町、武豊町などに多く遺っています。

本企画展では、「三禅定」を行った人々の日記や建てた石碑を手掛かりに、三山を巡る旅の歴史やその意味、三山への信仰などを立山衆徒との関わりから紹介します。さらに、当館初出展の「富士山参詣曼荼羅」や「白山曼荼羅」もご紹介いたしますので、ぜひお越しください。(細木ひとみ)

初 出展資料

- ・富士参詣曼荼羅(天満山松栄寺蔵[常滑市]、富士山かぐや姫ミュージアム寄託)
- ・富士参詣曼荼羅(富士山本宮浅間大社蔵[富士宮市])
- ・林西寺本白山曼荼羅(林西寺蔵[白山市]、白山市指定有形文化財)
- ・白山本迹曼陀羅図(上梨区蔵[南砺市]、南砺市指定有形文化財)
- ・享保13年(1728)『三ツ山道中記』(個人蔵[知多郡美浜町])
- ・寛政12年(1800)『三禅定道中記』(個人蔵[常滑市])
- ・文化10年(1813)『三禅定道中記』(個人蔵)
- ・文政7年(1824)『三禅定道中記』(個人蔵)

【展示関連イベント】※申込不要、企画展観覧料が必要

●担当学芸員展示解説会●

7月13日(土)、8月10日(土)、8月31日(土)、9月14日(土)
いずれも14:00～15:00

●特別講演会「三禅定巡礼と立山信仰」●

講師：加藤 基樹氏(文化庁文化財調査官)
日時：8月3日(土) 13:30～15:00 ※開場は13:00
会場：芦峯公民館(立山博物館展示館の隣)
定員：当日先着40名

※入口で企画展観覧券をご提示ください(半券可)。



開催場所 立山博物館・展示館1階 企画展示室
 開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
 観覧料 一般200円、大学生100円 ※高校生以下は無料
 休館日 月曜日(ただし、祝日及び7/29は開館)、7/16(火)、9/17(火)

※ 展示準備のため、7月12日(金)は臨時休館いたします。

目次

令和6年度 日本三霊山連携事業・前期特別企画展	
立山・白山・富士山を巡るー立山衆徒と三禅定ー	1
たてはく新任紹介	2
[収蔵資料紹介] 新たな「立山曼荼羅」を購入しました！	2
<日本三霊山連携事業> 令和6年度文化講演会 開催案内	2
学芸課発 立博雑学	
第13回 本草学者が見た、ライチョウの肉冠と毛の生えた足	3
ボランティア活動報告・立博ボランティア、今年も大活躍！	3
夏の催し案内	
○「たてはく探検隊」の隊員になって立山博物館を探検しよう！	4
○ミュージアムdeナイトin芦峯寺	4
○夏休み特別企画 まんだら遊苑「サタデーのしゃぼん玉」開催！	4
○まんだらナイトウォークー光りと香りのページェントー	4
編集後記	4





たてはく 新任紹介



副館長 川端 宏典

4月1日付けで着任しました。これまで「たてはくファン」として、展示館、教算坊をはじめ各施設を訪ねるとともに、特別企画展を観覧し展示解説会やミュージアムdeナイトin 芦峯寺やまんだらナイトウォークなどの催事に参加してきました。

これから館長をはじめ職員のみなさんと力を合わせ、館の魅力をより一層向上させ、多くの方々に来館し楽しんでいただけるよう頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



学芸課主任 河野 史明

このたびの異動で富山いずみ高等学校から赴任しました。赴任して間もないですが、立山博物館が多くの方々の情熱と、地域の方々の温かな支えのもとに設立・発展してきたことを肌で感じる日々を過ごしております。新たな知識を書物だけでなく、人や自然とのふれあいの中で得ることのできる環境は何より幸せで、心の栄養となっています。これから「立山」を学び、その魅力を多くの方々に伝えていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

収蔵資料紹介

新たな「立山曼荼羅」を購入しました!

令和6年5月、新たに発見した三幅対の「立山曼荼羅」を購入し、立山博物館に収蔵することになりました。

今回購入した立山曼荼羅の全体的な構図は、立山黒部貫光株式会社が所蔵している【立山黒部貫光株式会社本】に類似しています。また、右下に大きく「布橋灌頂会」が描かれていることから、芦峯寺宿坊家の衆徒と関わりがあった作品とみられます。ただし、他の立山曼荼羅にはない絵柄が多く描かれている点はすごく特徴的です。

これで、立山博物館が所蔵している立山曼荼羅は14点になり、確認している立山曼荼羅も54点となりました。本作品の資料名称を【立山博物館I (アイ) 本】とし、展示だけでなく、立山曼荼羅の研究に役立てていくつもりです。



「立山曼荼羅」立山博物館I本

左 幅: 本紙縦141.5×横67.3cm

中央幅: 本紙縦141.5×横67.3cm

右 幅: 本紙縦141.6×横67.3cm

●立山博物館I本については、細木ひとみ「新出の『立山曼荼羅』からみる立山信仰の一考察」(『研究紀要』第30号、富山県【立山博物館】、令和6年3月刊)参照。当館ホームページの「電子紀要」でも閲覧できます。

「立山曼荼羅」立山博物館I本の購入を記念して、立山黒部貫光株式会社本とともに、7月2日(火)より10月14日(月・振替休日)まで展示館2階で特別公開いたします。ぜひこの機会にご覧ください。

日本三霊山連携事業

令和6年度文化講演会 開催案内

「東海地域の白山信仰・富士山信仰からみた三禅定」

講師:

小阪 大氏

(白山市観光文化スポーツ部文化課課長補佐)

演題「南砺市上梨白山宮本『白山本迹曼陀羅』に描写された美濃禅定道の景観」

大高 康正氏

(静岡県富士山世界遺産センター学芸課教授)

演題「富士参詣曼荼羅松栄寺本と三禅定」

日時: 8月17日(土) 13:30~16:30

会場: パレプラン高志会館 カルチャーホール (富山市千歳町1-3-1)

※JR富山駅正面口より徒歩10分

定員: 200名 ※聴講無料、申込順

申込方法: 氏名(フリガナ)、住所、連絡先(電話番号)、参加人数を明記の上、ハガキ、FAX、当館ホームページのお問い合わせフォームのいずれかからお申込みください。

申込締切: 8月7日(水)必着 ※ただし、定員に達しましたら、募集を締め切ります。



三禅定碑 (名古屋守山区西城・白山神社)





学芸課発

立博雑学



学芸課によるリレー形式のコラムです。立山や立博についての蘊蓄や魅力を、雑学としてお伝えします。

第13回 本草学者が見た、ライチョウの肉冠と毛の生えた足

江戸時代、立山を訪れた文人や本草学者たちは、立山でライチョウを目撃していたようで、彼らが残した紀行文や採集記などに文字情報が残っています。ライチョウは「らいのととり」とも呼ばれ「鶉鳥」と書かれているものが多く、幕末になると「雷鳥」も散見されます。ただ、それらの目撃談は登山の途中、立山でライチョウを見かけたという事実が重要で、「この山の名鳥なり」とか「美しき鳥なり」という程度の感想がほとんどです。大きさは鳩や雉に例えている点が、ほぼ共通しています。

ニホンライチョウの学名Lagopus mutaのLagopusは「ウサギの足」の意だそうです。ウサギの足のようにフサフサと毛の生えた足が特徴的だったからでしょう。

もう一つの特徴は、目の上の赤い肉冠。ライチョウのイラストでは、この特徴的な赤い肉冠がデフォルメして描かれることも多いようです。ところで、この肉冠は雄鳥だけの特徴だ、と思っている方も多いのではないでしょうか？実は筆者もそうでした。しかし、最近になってライチョウに詳しい先生に聞き「雌も発情期や興奮した時には肉冠が見える」と初めて知りました。

江戸時代の本草学者が、ちゃんとそれを描いた絵図が残っています。

江戸時代後期から幕末の画家や本草家が描いた鳥の絵図を、名古屋の本草学者伊藤圭介が転写した『錦窠禽譜』（国立国会図書館蔵）には、白山や乗鞍のライチョウをスケッチした絵図がいくつもあるのですが、その中に雄と雌のライチョウを描き分けた図があります（写真1・2）。

これを見ると雌のライチョウを写生した図（写真2）には、ちゃんと赤い肉冠が描かれているのが分かります。これは立山のライチョウではないのですが、正確に描写した観察眼はなかなかのもので、もちろん、足の毛もしっかりです。但し、これは山で捕獲して江戸へ運ばれたものの写生です。登山の途中でたまたま見かけたただけなら分からなかったでしょう。

では、立山ではどうだったかという、絵図はないのですが、江戸時代の芦峯の人々もちゃんとこの事実を知っていました。

享保20年（1735）5月に、加賀藩の命を受け芦峯寺の衆徒が立山で産物調査を行い、寺社奉行に提出した文書「越中分産物書上帳 立山芦峯寺」（芦峯寺一山会蔵）にはライチョウについての記述があります。雄鳥を「鳥さか（鶉冠）ハ目の上赤く」と記した後に、雌鳥についても「とつさか（鶉冠）ハめの上赤し」と記されています。

室堂や雄山へ頻繁に登り、実生活の中でよく目にしていたからでしょう、立山で暮らす人々の眼も、さすがです。（吉野俊哉）



（写真1）『錦窠禽譜』「雷鳥 雄」の図



（写真2）『錦窠禽譜』赤い肉冠を見せる雌のライチョウの図。

目の上の小さな赤い肉冠に注目！

いずれも国立国会図書館デジタルコレクション

(<https://dl.ndl.go.jp/pid/2592250>)より部分転載。

ボランティア活動報告

立博ボランティア、今年も大活躍！

- 4月13日(土)、ボランティア総会を芦峯公民館で開催し、佐伯照代会長の進行のもと、教養講座の充実、ボランティア募集についてなど、活発な意見がかわされました（参加者18名）。また、総会後には第1回教養講座として、館長の岡田知己が「大正期登山ブームの中の皇族登山」と題して講演しました。大正期の新聞記事は、当時の人々の皇族や立山に対する価値観・意識を垣間見ることができ大変貴重な資料でした。
- 4月21日(日)の午前中には、毎年恒例の教算坊の池掃除を行いました。池の水を抜いて泥や落ち葉を掻き出し、池底や石積みなど隅々まで磨きました。
- 5月3日(金・祝)、4日(土・祝)、5日(日・祝)の3日間、ボランティア有志による「立山博物館コンシェルジュ」を実施し、歴史と風情ある芦峯寺集落を楽しく会話しながら参加者を案内しました。天気にも恵まれ、県内外、親子連れなど、のべ30名もの利用者があり盛況でした。（河野史明）



「立山博物館コンシェルジュ」の実施



夏の催し案内

イベントの詳細は
博物館まで
お問合せください!

「たてはく探検隊」の隊員になって 立山博物館を探検しよう!

夏休みの恒例イベント「たてはく探検隊」の隊員を募集します。ゲームやクイズにチャレンジしながら、たてはくを探検し、素敵なお宝をゲットしよう! 立山曼荼羅の絵解きや、えんま様のお話、ミニ布橋灌頂会など、盛りだくさんの内容で、立山の自然や歴史について楽しく体験しながら学ぶことができます。ちびっこたちの参加を心よりお待ちしております。



- ◎開催日時 7月27日(土) 9:30~12:30
- ◎開催場所 展示館、教算坊、閻魔堂ほか
- ◎参加費 無料(ただし、事前申し込みが必要)
- ◎定員 25名
- ※申し込み方法は、立山博物館ホームページやチラシなどをご覧ください。
- ※小学生を対象とします。また、原則として保護者同伴をお願いします。参加児童は、損害保険に加入します。(保険料は当館で負担します。)

夏休み特別企画 まんだら遊苑「サタデーのしゃぼん玉」開催!

昨年のまんだらナイトウォークの際に大変好評だった天界須弥山でのしゃぼん玉飛ばしを、夏休み特別企画「サタデーのしゃぼん玉」としてお昼に開催します。開催時間中は、須弥山よりたくさんしゃぼん玉が天に向かって飛んでいきます。天に向かうしゃぼん玉を見て皆さんはなにを感じるでしょうか。小さなお子さまにはしゃぼん玉セットをプレゼント。みんなでしゃぼん玉を楽しもう!



- ◎開催日 7月20日(土)、27日(土)、8月3日(土)
- ◎時間 各日とも 13:00~15:00
※ただし、雨天・荒天・強風時は中止します。
- ◎観覧料 一般400円 ※大学生以下、70歳以上は無料

好評につき、今年は三夜に拡大! ミュージアムdeナイトin芦峯寺

博物館を地獄色にライトアップします。しばし暑さを忘れる博物館で地獄巡り。今年も、お楽しみイベントでお持てなします。ご期待ください。

夏の夜、3時間だけの地獄博物館がやって来る!

- ◎家族で楽しめるクイズ対決。
- ◎楽しみながら博物館をまわる地獄スタンプラリー。
- ◎江戸時代さながら、雰囲気も味わえる旧宿坊お座敷で「立山曼荼羅絵解き解説」口演。みなさまのご来場をお待ちしております。



- ◎開催日 8月10日(土)、11日(日・祝)、12日(月・振休)
- ◎時間 18:00~21:00 (入場は20:30まで)
- ◎会場 展示館、教算坊、山岳集古未来館
- ◎観覧料 展示館(常設展)一般300円、(企画展)一般200円・大学生100円
教算坊と山岳集古未来館は無料

キャンドルとアロマで演出! まんだらナイトウォーク-光りと香りのページェント-

まんだら遊苑の夜間開苑として好評を得ている「まんだらナイトウォーク」を今年も開催します。闇夜に照らされる幻想的なキャンドルなどの光りとアロマの香りによる美しく幻想的な世界を楽しんで下さい。当日の入場方法などについての詳細は、後日、立山博物館のホームページで発表します。皆さん、お楽しみに。

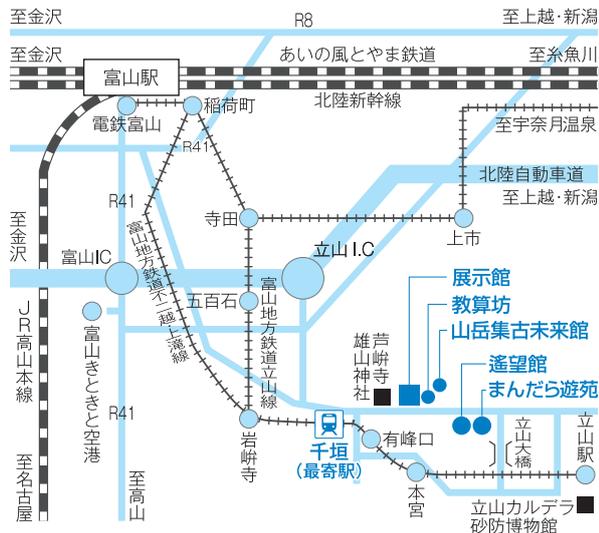


- ◎開催日 9月14日(土)、15日(日)
- ◎時間 18:30~20:30(入苑は20:00まで)
- ◎観覧料 一般400円 ※大学生以下、70歳以上は無料

編集後記

「今年の夏も暑いのかな…」と心配になる今日この頃ですが、今年も立博では人気イベントを開催する予定にしています。そして、その中でもイチオシ!なのが、前期特別企画展です(笑)頑張って準備しておりますので、ぜひ涼みにお越しください(細)。

案内図



- 最寄り駅
富山地方鉄道立山線千垣駅
下車徒歩(約2km)
※日曜を除き町営バス運行
「雄山神社前」下車すぐ
- 自家用車で
JR富山駅から 約45分
立山駅(千寿ヶ原)から 約15分
富山インターチェンジから 約35分
立山インターチェンジから 約30分

立山博物館のHPはこちらから



人間と自然のかかわり方を学ぶ

富山県[立山博物館]

〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦峯寺93-1
TEL 076-481-1216 FAX 076-481-1144

でも情報発信中 立山博物館